



ななかく 七角の家

北山丸太が支える住まい

設計趣旨

七角の家は、京都市郊外、緑豊かな山裾にひっそりと佇む親子四人が住む正七角形の住宅である。北山丸太をみえる構造材として、柱、梁、小屋組みにふんだんに利用している。

■なぜ正多角形か。施工合理性への配慮

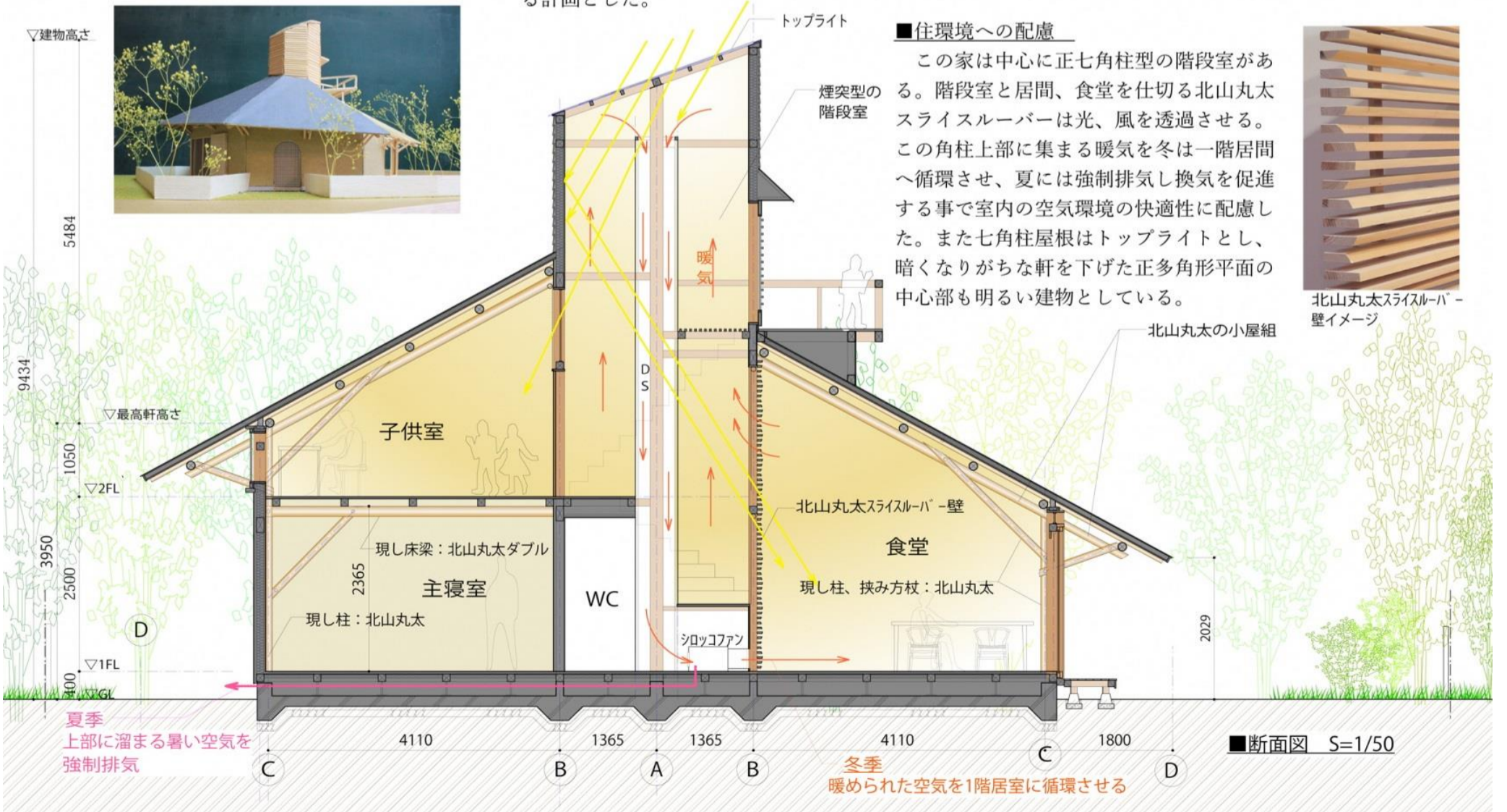
角材ではなく丸太を柱に用いる事で、平面的に直角接合の合理性が薄れるのではないか。これは直角に交わるグリッドからの開放の可能性を示し、北山丸太を柱に使う建物の一つの特徴と考えた。ただし、仕口の施工合理性を考慮し、建物形状を正多角形とし、どの断面、どの出隅での接合も共通の施工方法で行える計画とした。

■住環境への配慮

この家は中心に正七角柱型の階段室がある。階段室と居間、食堂を仕切る北山丸太スライスルーバーは光、風を透過させる。この角柱上部に集まる暖気を冬は一階居間へ循環させ、夏には強制排気し換気を促進する事で室内の空気環境の快適性に配慮した。また七角柱屋根はトップライトとし、暗くなりがちな軒を下げた正多角形平面の中心部も明るい建物としている。

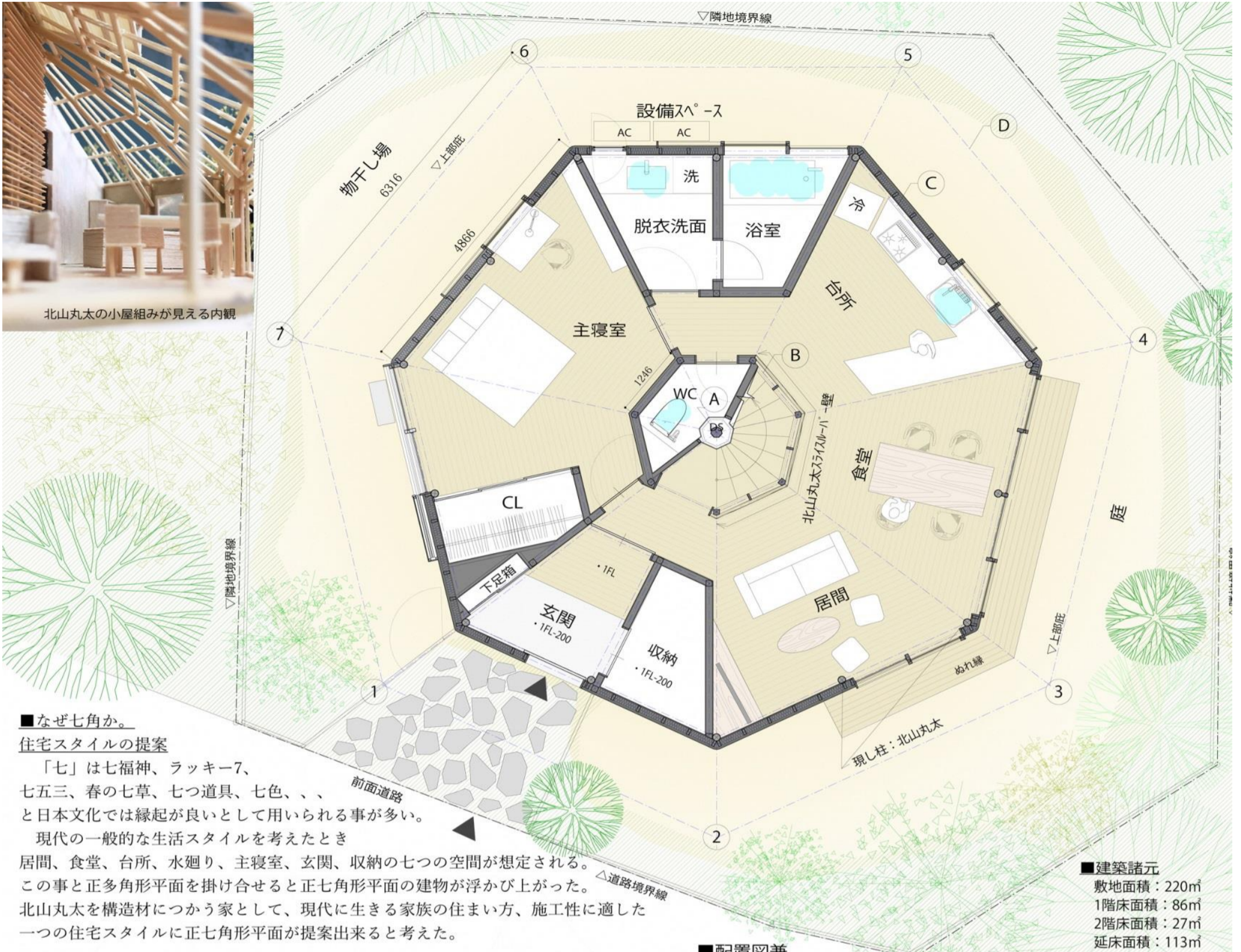


北山丸太スライスルーバー壁イメージ





北山丸太の小屋組みが見える内観



■なぜ七角か。

住宅スタイルの提案

「七」は七福神、ラッキー7、七五三、春の七草、七つ道具、七色、、、と日本文化では縁起が良いとして用いられる事が多い。

現代の一般的な生活スタイルを考えたとき居間、食堂、台所、水廻り、主寝室、玄関、収納の七つの空間が想定される。この事と正多角形平面を掛け合せると正七角形平面の建物が浮かび上がった。北山丸太を構造材につかう家として、現代に生きる家族の住まい方、施工性に適した一つの住宅スタイルに正七角形平面が提案出来ると考えた。

■建築諸元

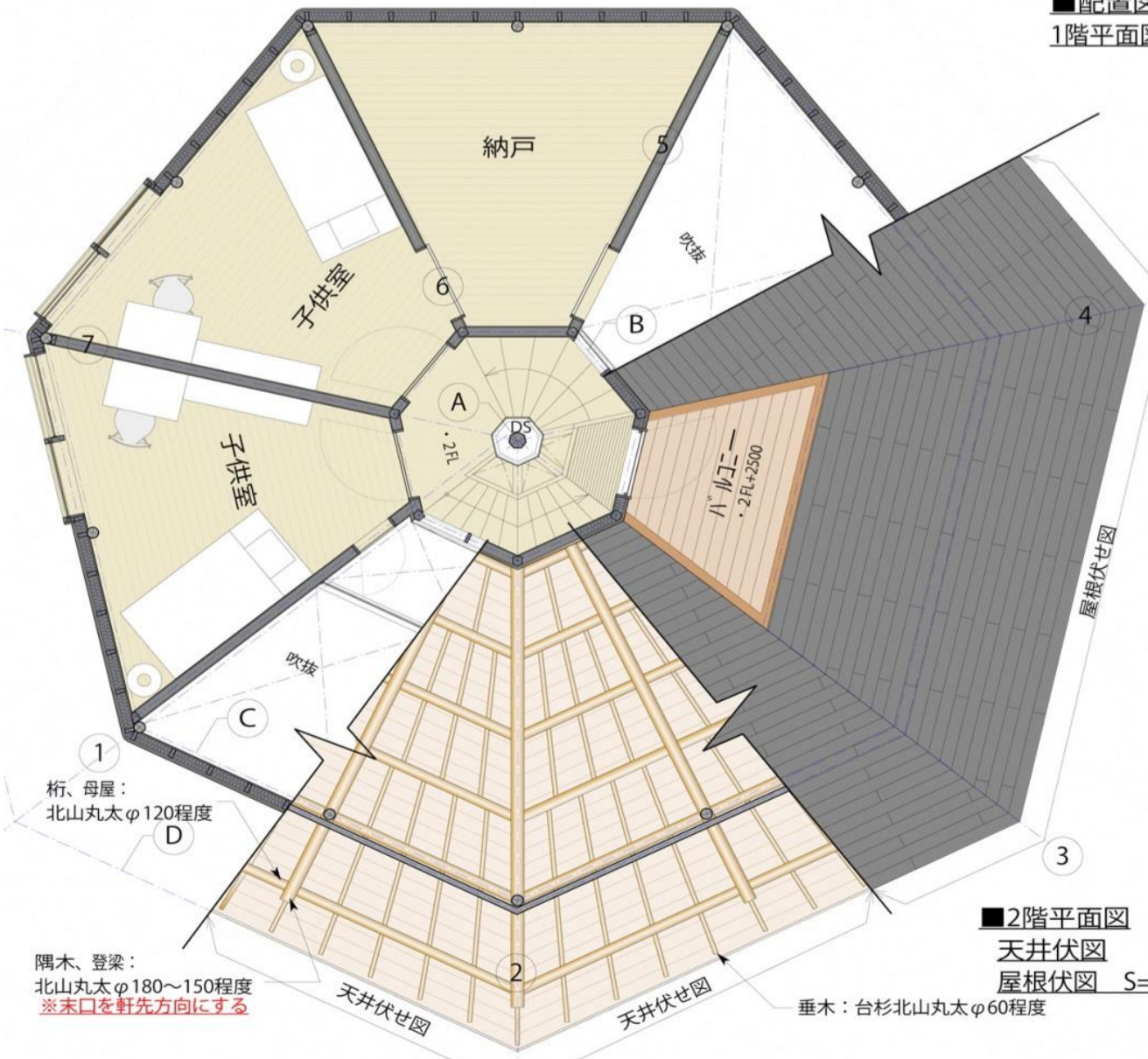
- 敷地面積：220㎡
- 1階床面積：86㎡
- 2階床面積：27㎡
- 延床面積：113㎡
- 建築面積：104㎡
- 最高軒高：3.95m
- 建物高さ：9.43m

■配置図兼

1階平面図 S=1/50

■丸太の仕口の提案と材の配置

丸太同士の接合は片引ボルト等の金物を利用し、特別な技術を要しない施工方法を採用する。また、大きい材となる登り梁・隅木は元口を棟側、末口を軒側とし、丸太の寸法の変化と、求められる強度・重量とを合うように材を配置している。



■2階平面図

天井伏せ図
屋根伏せ図 S=1/50



■北山磨き丸太接合部詳細図 S=1/20

隅木、登り梁：
北山丸太φ180~150程度
※末口を軒先方向にする

垂木：台杉北山丸太φ60程度

挟み方杖：北山丸太φ120程度
片引きボルトφ9固定 座堀+埋木処理

現し柱：北山丸太φ150程度
柱頭部ホソパイプ+ドリフトピン固定

挟み方杖：北山丸太φ120程度
片引きボルトφ9固定 座堀+埋木処理

垂木：台杉北山丸太φ60程度 タキック固定
母屋：北山丸太φ120程度
片引きボルトφ9固定 座堀+埋木処理
上り梁及び隅木：
北山丸太末口180~150程度
※末口を軒先方向にする
断熱材：フェノールフォーム-60